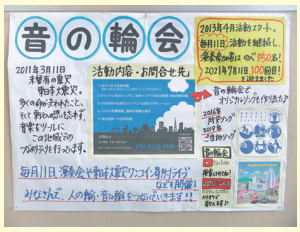
ボランティア紹介リレー

第24回

今回は、『イメイカ・アイランダース』からの紹介で、『音の輪会』をご紹介します。

「音の輪会」とは？

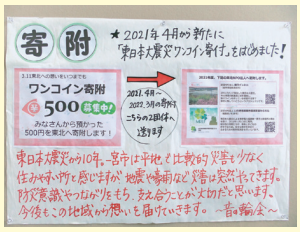
2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに、震災を忘れないよう、音楽をツールとした地域でのつながりづくりを目的として、2013年3月11日に「音の輪会」を発足。現地に直接行けなくても、離れた場所からでもできることを考えて活動をしています。



活動のパネル展示

主な活動や目的は？

東日本大震災を忘れないよう毎月11日に、演奏会やイベントを開催しています。その際募金箱を設置し、被災地へのワンコイン寄付を実施しています。コロナ禍ではラジオアプリを活用し、自宅から配信等を行っています。オリジナル防災ソング「BOUSAI　GENSAI　Exercise」を作曲し、音楽を通じて幅広い世代の方々に防災に関心を持ってもらえるよう活動しています。また、YouTubeチャンネルも開設しています。



被災地に向けてワンコイン寄付

活動のやりがいは？

活動を継続してきたことで、社会貢献活動を積極的に行う企業とのタイアップや、地元FMいちのみやさんとの関係を構築することができ、防災イベントに参加できました。これまで100回以上イベントを開催してきましたが、参加者から「自宅に飲料水を備蓄するようになったよ！」「3月11日だから募金するために来たよ！」と反応があり、回数を重ねた結果、少しずつ地域に防災意識が根付いていることを実感しました。

７月 11 日に開催された
イベントの様子

市民の皆様へひとこと

毎月11日に活動することで、東日本大震災を風化させないようにしています。11日という日が防災意識を持つきっかけとなるよう、音楽を通じて市民の皆さんと一緒になって考えていきたいです。コロナ禍でも、「音の輪会」の音楽が、皆さんの癒しの一助となれば幸いです。また様々なイベントを開催していく中で培ったスキルを活かして、イベントを一緒に立ち上げるお手伝いもできますので、ぜひご相談ください。

取材を終えて

今回は 100 回記念の演奏会にお邪魔させていただきました。会場は客席の距離を十分にとり、演奏者は夫婦ユニットでかつ感染対策もしっかり行われた中での開催でした。会場にはワンコイン寄付の使い道が明確に示され、当日は賛同される方が大勢いらっしゃいました。今もなお復興を掲げて取り組む被災地を想う曲や、参加者が楽しめる洋楽などジャンルは様々でしたが、会場が拍手で一体感に包まれ音楽が人を動かす力になることを肌で感じた演奏会でした。今後も音の輪会さんの益々のご活躍を願っています。

前号のボランティア紹介リレーの回数に誤りがありました。お詫びして訂正させていただきます。（正：23回、誤：22回）

図書館で借りることができます。

おすすめふくしの本　きみがうちにくるまえ…

マリベス・ボルツ/作　ディビッド・ウォーカー/絵　木坂　涼/訳　あすなろ書房

主人公は子犬を愛する男の子。男の子は新しい家族の一員になった子犬に聞きたいことがたくさんあります。「きみはうちにくるまえ、どこでなにをしていたの？」

物語の中に出てくる子犬は、ひとりぼっちで路上にいるところを施設に「保護」された犬でした。保護されるまで、子犬がどのように生活をしていたのかを男の子が想像していくことで物語は進んでいきます。

犬を家族の一員として迎え、家族と同じように愛情をそそぐことの大切さを教えてくれる作品です。